

授業科目(ナンバリング)	健康・生きがいづくり総論 (DF202)			担当教員	坂本 雅俊		
展開方法	講義	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
高齢期の健康と生きがい、アンチエイジングとしての心身の美しさや家計の安定設計に関する研究成果を学修する。この科目では、豊かな高齢期をサポートできる人材育成を目指す。そのため、熟年期の生きがいについての研究成果の配布資料を十分に読むこと。関連知識として、福祉、医療、観光分野をはじめ、対人サービス業での就業や独立自営を意識した「広報、インフォメーションテクノロジー、経済動向」に係る理解と活用方法を獲得する。							① ② ③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域社会を構成する保健医療福祉関係の多職種とのネットワークを理解し、生活者の人生設計に協力できる知識を獲得できる。				授業 8 回目の試験	80%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	「だれもが生きがいを抱ける共生社会」創りに必要な「解決力」を体得できる。そのための知識、技術の問題を課し、省察を行うワーキングに取り組む。また、生きがい情報関連の IT 検察技術、及び、プレゼンテーション技術を身に着けることができる。				授業内の課題シートの提出	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
講義回数は7回。生きがい情報士資格の「原論」科目である。 授業内での課題シート提出で20%の評価を行い、授業8回目の試験で80%の評価を行う。授業中に数名分の課題シートを学生に紹介し、共有知識としてフィードバックする。							
授 業 の 概 要							
面接授業を中心にした講義を進める。熟年期に充実した生活を送るための理論について、テキストを用いて、福祉、経済、医療、情報、家族、デザイン、対人援助などの分野からアプローチし、ディスカッション等も用いて、理解と方法を深める。コンピュータを用いた検索機能を活用することが必要である。また、長寿社会における充実した暮らしを考えるための方策について視聴覚教材を用いて学修する。授業の案内や情報はポートフォリオを活用する。 生きがい情報士資格の必須科目には、SW援助技術・IT 技術、広報技術、ファイナンシャルプラン等があるが、それらの内容は社会福祉学科専門科目で読み替えられる科目であるため、これらについても簡単に紹介する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：岩佐浩之、渡辺美佐子制作（2008）「生きがい情報士試験対策ワークブック」財団法人 健康・生きがい開発財団発行（授業で資料を配布する） 参考書：財団法人 健康・生きがい開発財団編（2008）「生きがい情報士養成テキスト（3巻セット）」中央法規（株） 指定図書・中島裕編著（2017）「保健医療サービス」ミネルヴァ書房							

授業外における学修及び学生に期待すること

生きがい情報士の職務は「熟年期の者を「指導」するのではなく「支援」すること」と定義されている。社会福祉学を専攻する学生として、人に寄り添い、共に人生を歩むことを旨として、ホスピタリティの精神を踏まえて専門性を磨いて欲しい。生きがい情報士の資格取得は、福祉士や民間企業での対人サービス業を目指す学修者がそれぞれの業務についたときに、ソーシャルワーカーとしての幅をグレードアップすることにつながることを意識してほしい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	生きがい情報士の資格	熟年期の健康と生きがいづくりを支援する専門資格について学ぶ。	予習：シラバスを読み、資格について調べる。復習：資格の歴史をまとめる。
2	高齢社会の構造と熟年期の定義	熟年期の定義について学ぶ。高齢社会の構造について学ぶ。	予習：熟年期の生活を調べる。復習：高齢社会と生きがい理論を振り返る。
3	高齢者の加齢と心身機能	生活習慣の評価方法、退職後の生活設計について学ぶ。	予習：QOL変数について調べる。復習：生活システム理論を振り返る。
4	新しいライフステージ論	高齢期を幸福で豊かなものにするための健康と生きがいの関係を理解し、シニアボランティアについて学ぶ。	予習：高齢期の生活問題を調べる。復習：ライフステージ論を振り返る。
5	相談事例の検討	T字型の専門性を踏まえて、相談事例を考えることから学ぶ。	予習：情報士の支援内容を調べる。復習：生きがい情報士支援技術をまとめる。
6	生きがい情報検索支援システムの使用方法	生きがい情報士と健康生きがいづくりアドバイザーとして、ウェブサイトの利用方法を学ぶ。	予習：健康・生きがい開発財団のウェブを観る。復習：理念モデルを理解する。
7	生きがい情報士の理念モデルについて まとめ	生きがい情報士の理念モデルを振り返る。次回の定期試験の模擬問題を解く。(以上の講義内容とテーマは、財団法人健康・生きがい開発財団の生きがい情報士指定養成校申請マニュアルのモデルシラバスを参考に作成した)	予習：ワークブック問題を解く。復習：試験準備を行う。
8	定期試験	8回目の授業時間に試験を実施する。	